

屋久島 -森と人の風土記-

奥深い山と巨大な屋久杉の森が広がり、今も原始の森が残ると名高い屋久島。しかし、かつては大規模な林業が行われ、島の人々の生活を支えていた。ここでは、屋久島の森と人との歴史を、平成29年に計測した航空レーザーデータや江戸時代の石高（伐採量）から読み解く。

屋久島年表

隋大業三年	607年
推古天皇二四年	616年
大宝二年	702年
天長元年	824年
建仁三年	1203年
応永十五年	1408年
天文十一年	1542年
天正十五年	1587年
天正十八年	1590年
文禄四年	1595年
寛永十七年	1640年
明暦二年	1649年
大正十年	1923年
昭和三十年代	1955年
昭和四一年	1966年
平成五年	1993年

『隋書』夷狄久国の記載あり
『日本書紀』掖久の久が日本に来る
多禰国を置く(種子島と屋久島)
大隅国馭国郡に再編
種子島氏(肥後氏)の懸毛郡・馭国郡支配開始?
八代目種子島清時、島津元久より屋久島を与えられる。
補獲合戦
豊臣秀吉による九州征伐
方広寺のため屋久杉を伐採
種子島氏が知覧に所替 薩摩藩の直轄支配の開始
浦如竹の献策による屋久杉活用開始(江戸期で5割~7割の伐採)
奉行制の廃止 固有山林とされ伐採の停滞
屋久島国育林経営の大綱(屋久島憲法)の発布 同祭の再開
戦後復興のための大量伐採の時代
縄文杉の発見
ユネスコ世界遺産に登録

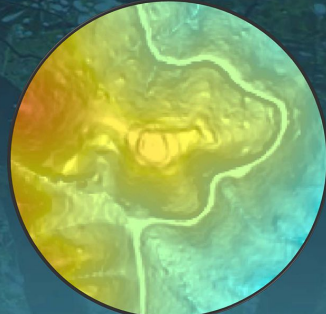
補獲合戦(天文年間)

天文十一年(1542年)、種子島家が領有していた屋久島を、大隅半島の蒲葦氏が上陸し合戦に合った。一時は蒲葦氏が屋久島を占領したが、種子島氏に敗れて撤退した。城ヶ平城、楠川城などが戦場となり、この合戦で、日本で初めて火縄銃が使われたとされる。

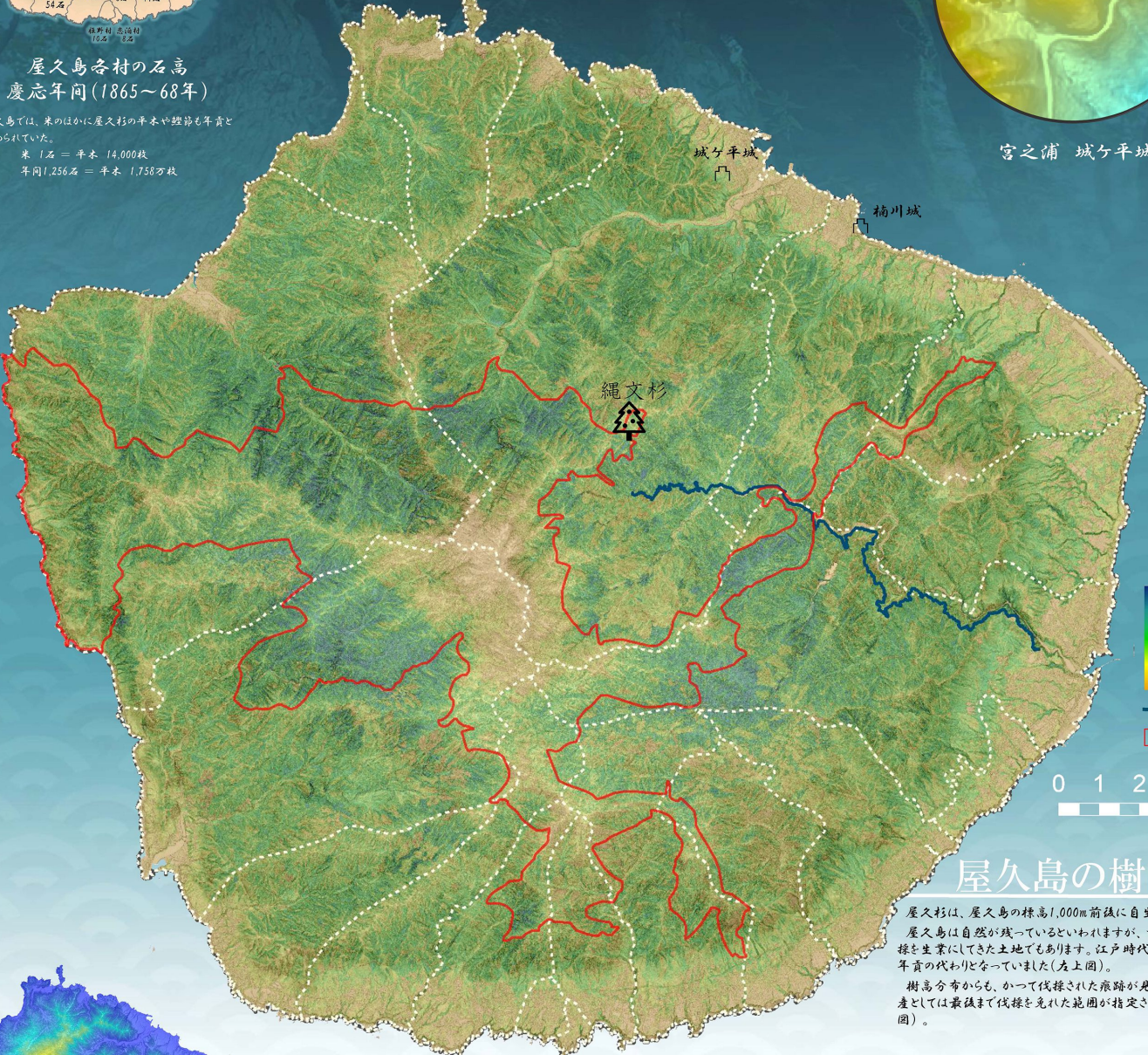


屋久島各村の石高 慶応年間(1865~68年)

屋久島では、米のほかには屋久杉の平木や整節も年貢と認められていた。
米 1石 = 平木 14,000枚
年貢 1,256石 = 平木 1,758万枚



宮之浦 城ヶ平城

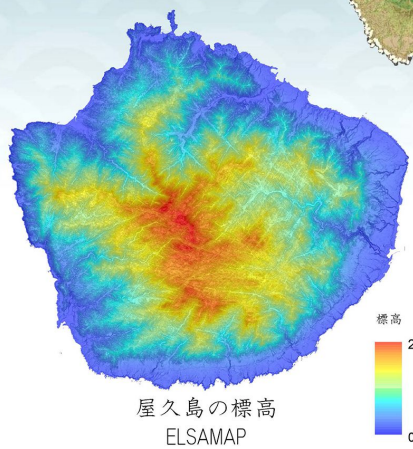


樹高
40m
0m
トロッコ道
世界遺産範囲

0 1 2 4 km

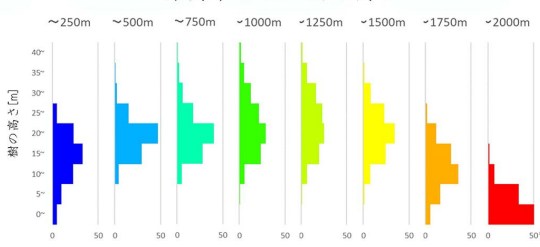
屋久島の樹高分布

屋久杉は、屋久島の標高1,000m前後に自生する杉です(下図)。屋久島は自然が残っているといわれますが、古くから屋久杉の伐採を産業にしていた土地でもあります。江戸時代は屋久杉の板材が年貢の代わりとなっていました(左上図)。樹高分布からも、かつて伐採された痕跡が見てとれます。世界遺産としては最後まで伐採を免れた範囲が指定されています(中心図)。



屋久島の標高 ELSAMAP

標高帯ごとの樹の高さ



出典

- 平成29年航空レーザー測量成果(国際航業計測)
- 環境省自然環境局「世界自然遺産区域」GISデータ
- 正保郷帳、天保郷帳(Wikipedia)
- 旧高旧領取調帳(データベースれきはく)
- 農林業センサス二〇一五

処理ツール

- ArcGIS
- Photoshop

Japan Asia Group
国際航業

